

57

供覧

内閣官房総務課長

内閣書記官



佛紙ブテイ・パリジャン特派員
の質問に対する陸軍大臣の解答

昭和七、四、二三
陸軍省新聞班

伊紙ブテイ・ハリジャン婦人特派員一アンドロー・
ワイオリス」が荒木陸軍大臣に提出せる質問に對す
る答解集

問、上海停戰會議諸懸案に關する陸軍大臣の御意見承り度

日本軍が共同居留地への撤退を拒絶せば交渉は決裂に至るべきも
尙且日本軍は關北、江濟鎮、吳淞の線より後退すること不可能な
りと考へらるるや

答、支那側に充分の誠意を認めざる間は海外孤立の姿勢にある派遣軍
としては先づ軍の安全を保障し且つ派遣の目的を達成する爲に必
要なる最少限度の地域は是非保有しなければならぬ。而して關北
江濟、吳淞の線は此最少限の地域であつて輸送、衛生、宿營並給
養上より見るも絶對必要の最少限度である。故に充分なる自衛と
任務達成の必要上後歩は困難なのであるのを遺憾として居る。

問、日本軍の日本引揚に關する決定的期日を願慮せられありや

日本派遣軍が上海近郊に殘駐することせば其駐屯期間並に師團數を
承り度

答、日本軍は上海附近の平靜が確保せられ出兵の目的を達成して過去
にありし禍根が除かるれば一日も速に全兵力撤退の用意をしてゐ
るのである。而して上海駐屯期間殘駐兵力等は一に支那側の誠意
態度如何に關するもので今から豫定し置く事は出來ない。

問、日支紛争に於ける國際聯盟の處置に關し陸軍大臣の御所感を承り
度

陸軍大臣は多數の首腦者と共に日本の國際聯盟脫退を眞面目に願
慮せられつゝ、ありこの事あり、事實なりや、果して事實とせば其
理由を承り度

日本が聯盟を脱退する時は歐洲殊に佛國に於て大なるセンセイシ
ョンを惹起せしめあり

答、本紙は本件に關し陸軍大臣より確定的御意見を承り度切望す。吾人は國際平和の維持に必要な國際的團體から故なき離脱を好むものでもなくまた考へても屏らぬ。然し國家の盛衰、國民死活に關する重要問題に直面せる時其團體内に籍を置くが故に滿洲及上海問題に就て全く利害關係もなく又、真相をも充分諒知せざる小國の反對ありて却つて累せらるることは忍び得ない所にして予一人のみならず國民の總決意も此點は随分強いのであるから其計く所遂に聯盟に對し自然不平不満を高潮し或るを虞るるのである唯此際特に力説したきは國際聯盟が充分東洋就中日本と支那の現況を觀察して單に宣傳や形式の上にて論議する事なく歴史及地理其他の特性を認識して直に世界平和のための聯盟の任務を盡さん事を望む次第である。其實況真相の認識を缺乏し利害關係に何等縁故なきものが感情の上よりして其可否を論議する事あらんか聯盟の重きを爲す所以でなく又其前途の信用に就て一の暗影を投

けるものではないかと案ずるのである。

問、日本は何れの時期に於て正式に滿洲國を承認せらるるや

答、蘇國が日本に先じて滿洲國を承認し友好關係を結ぶ場合如何なる結果を生ずべきや

問、滿洲國の承認に關しては未だ言明の時機に達してゐないと思考する

答、蘇國が日本に先じて承認するか否かは問ふ處ではない然して蘇國が眞に滿洲國否東洋和平のために極東の平安を誠心より助長する如くあらんことを切望するのである

問、滿洲國政府は日本の援助なくして滿洲に於ける平和と秩序を維持し得るものなりや

答、日本は滿洲に於て是非今後永遠に平和ならんことを祈つてゐる。従つて之れがためには凡ゆる力を致すを辭せないのである、故に滿洲國が當分は自然日本の活動によりて平和と秩序を維持する事

となるであらう、又日本と滿洲とは地理的歴史的に特殊の關係を有するが故に滿洲の治安維持に就て帝國が大なる關心を有するは勿論である

問、日本に於ける經濟逼迫、政治並社會上の不安が陸軍及日支紛争に如何なる反動を及ぼすや

答、我國の財政は見様によりては必ずしも豊ならざるやも知れないが國民經濟は逼迫しあるものは思考しない又政治並に社會上不安ありとも思はず事國家の生存國民の死活に関する限り我が國民は由來舉國一致目的の貫徹に邁進するものである。今や日本全國民は日支紛争事件の重大性深刻性を明確に認識し萬難を排し帝國の永遠的生存の爲に舉國一致奮闘してゐることを認諭せられたい